

平成26年度 やまなしエコ通勤 トライアルウィーク 実施状況



1. 参加申し込み状況

申し込みと現在の通勤状況

申し込み	従業員数	マイカー通勤
40	13,500	9,906

- ・エコ通勤トライアルウィークへの参加申し込みのあった事業所数は40事業所。
- ・参加事業所に勤務する13,500人のうち9,906人(73.38%)が現在マイカーで通勤。

ステップ1 エコ通勤PR取り組み状況

メール等	掲示等	会議等	個別	その他
26	25	23	16	2

- ・エコ通勤のPRは40箇所全ての事業所で実施。
- ・PRの方法は、各事業所で、効果的な方法を選択してもらい、内訳は

「メール・イントラネットなどで案内」	26事業所
「掲示物・職場内回覧などで周知」	25事業所
「会議・朝礼などで呼びかけ」	23事業所
「マイカー通勤者に個別に働きかけ」	16事業所
- ・「その他」の2事業所は「パンフレットの配布」によるPRを実施。

ステップ2 エコ通勤転換予定者数

徒歩	自転車	公共交通	その他	計
259	460	291	18	1,028

- ・期間中は参加事業所のマイカー通勤者9,906人のうち、1,028人(10.38%)がエコ通勤にチャレンジする予定。
- ・エコ通勤の種別ごとの転換者数は

「徒歩通勤にチャレンジ」	259人(25.19%)
「自転車通勤にチャレンジ」	460人(44.75%)
「公共交通通勤にチャレンジ」	291人(28.31%)
「その他のエコ通勤にチャレンジ」	18人(1.75%)
- ・「その他のエコ通勤」の18人は「マイカーによる乗り合わせ通勤」を実施予定。

ステップ3 ワンコインエコチケット配布数

チケット計	実人数
1,874	541

・配布対象者別内訳

	チケット	実人数
公共交通にチャレンジ	1,060	134
自転車通勤にチャレンジ	814	407
計	1,874	541

- ・今年度は、自転車通勤にチャレンジする方に雨天対応用として1日分のエコチケットを配布。

期間中、1乗車100円で路線バスを利用可能な「ワンコインエコチケット」の配付枚数は1,874枚。

うち、バス通勤にチャレンジする方の分が1060枚、自転車通勤にチャレンジする方の雨天のバス対応分が814枚

- ・エコチケットを配付する実人数は541人で、うちバス通勤にチャレンジする者が134名、自転車通勤にチャレンジする方が407名

2. 期間中の取り組み状況

バス事業者からのエコチケット利用状況

9月24日	49
9月25日	61
9月26日	66
9月27日	7
9月28日	5
9月29日	40
9月30日	47
合計	275

- ・期間中のワンコインエコチケットの利用数は275枚で、配付数1,874枚の14.7%。
- ・エコチケット利用率が低かったが、自転車通勤にチャレンジする方に一日配布したチケットが利用されなかったことが大きな要因と考えられる。

参加事業所からの実績報告

	徒歩	自転車	公共交通	その他	計
9月24日	131	193	87	40	451
9月25日	124	177	92	43	436
9月26日	126	221	95	40	482
9月27日	17	32	8	0	57
9月28日	17	13	8	6	44
9月29日	124	238	87	26	475
9月30日	129	234	92	31	486
合計	668	1108	469	186	2,431

- ・期間中にエコ通勤に取り組んだと報告のあったのは延べ2,431名。
- ・参加申し込みのあった1,028人が、期間中に平均2.4回のエコ通勤を実施した。
交通手段ごとの実施率を比較すると、徒歩が2.6日/人(668日/259人)、自転車が2.4日/人(1108日/460人)、公共交通が1.6日/人(469日/291人)、その他が10.3日/人(186日/18人) 予定数18人以上の実参加者があったものと推定)

参加者からの代表的な意見

・肯定的な感想

- ・環境や健康のためにエコ通勤は有効な取り組みだと感じた。
- ・交通渋滞の影響を受けることなく、イライラしない通勤ができた。
- ・風景を見ながら通勤でき、良い気分転換となる。
- ・移動時間を読書等有効に活用できるメリットがあることがわかった。
- ・自転車通勤は健康にも良く、環境にも優しいので続けたい。
- ・年に数回エコトライアルウィークを行っても良いのではないか。

・否定的な感想

- ・通勤で使えるバスの便数が少ない。特に夜の便が少なく、利用しにくい。
- ・公共交通利用の場合、マイカーよりも時間がかかりすぎ、時間に追われてしまう。
- ・バスが時間どおりの運行とならず、通勤に使いにくい。
- ・自宅から最寄の駅・バス停までの距離が遠く、車に比べて不便。
- ・エコチケットで乗車できる期間は良いが、費用負担が大きく、毎日の利用は難しい。

・転換への課題

- ・公共交通機関の利便性(朝・夜便数、運行時間の拡張)の向上がないと、現状ではマイカーからの転換は難しい。
- ・勤務地・居住地付近に公共交通機関がなく利用が困難。中心市街地以外は公共交通への転換は困難では。
- ・自転車通行による危険を感じた。自転車道と歩道の区分け等の受け皿整備が必要。
- ・改めて公共交通を利用すると、料金の高さがネックとなる。